

No.50

2013 | Autumn



# 奈良時代の 絵馬、現る!



2012 (平成24) 年11月から2013 (平成25) 年4月に行った鹿田遺跡第24次調査で、奈良時代 (8世紀後半) の井戸から2点の絵馬が出土しました。絵馬には猿が馬を曳く「猿駒曳」と「牛」が描かれていました。この時期のものは瀬戸内地方では初の例です。また猿駒曳は国内初出土で、牛も国内最古のものです。

710年に遷都した平城京では8世紀前半の絵馬が出土しており、その後は静岡県伊場遺跡などの郡衙関連遺跡 (地方の役所) にもひろがっていきます。今回の絵馬は鹿田遺跡の性格を知る上でも重要です。

それでは絵馬をじっくりみてみましょう!!

(南 健太郎)

岡山大学 | Okayama University  
Archaeological research center Center report  
埋蔵文化財調査研究  
センター報



国内最古の牛の絵馬 (赤外線写真: 実物大)

# 猿駒曳の絵馬



顔料で描かれた部分がわずかに白く浮き出て見えています(実物の3/4倍)。



白く浮き出た部分を白線で復元してみました。鞍や帯には墨で模様を描かれているようです。



鎌倉時代(1297年)の猿駒曳  
重文金銅装宝篋印塔の戯画  
(称名寺所蔵(神奈川県立金沢文庫保管))

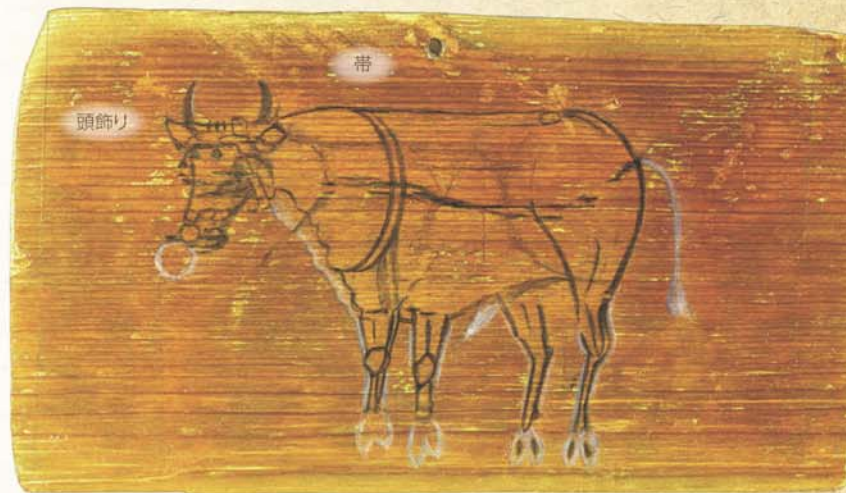
馬の口元から下にのびる手綱を、猿が両手でひいています。猿は目と耳が大きく描かれており、片足を曲げて座っています。これまで最古とされていたのは鎌倉時代の猿駒曳(左の図)で、構図や描写方法がよく似ています。猿と馬の密接な関係が今回の発見で奈良時代まで遡ることがわかりました。

また馬には鞍や籠などの馬具が描かれており、胸や尻には帯の表現もあります。鞍の下の障泥は全体的に白っぽく変色しており、顔料で彩色されていた可能性があります。豪華に飾られている点や描写方法は都の絵馬にもひけをとりません。

# 牛の絵馬



墨で描かれた線がよく残っています。顔料が使われた部分は白く浮き出て見えています(実物の3/4倍)。



墨が残っているところは黒色、顔料の部分は白色で復元してみました。

牛の絵馬は猿駒曳に比べて墨の残りが比較よく、体の特徴がよくわかります。両者を比較すると、尻から後ろ足へのラインが非常によく似ています。一方で、二つに割れた蹄や垂れ下がった尻尾は馬との違いを明瞭に表しています。

また足の筋や前足から首が波打つ姿、膝の関節といった細かな部分まで写実的に描かれている点も注目されます。

また頭には飾りがつけられており、額には房のようなものもみえます。胴体には帯の表現があり、背中にはうっすら赤色で彩色されたあともみえます。牛も馬のように飾られていたようです。

牛が描かれた絵馬は古代では3点しか出土しておらず、馬とセットで出土したことは初めてです。牛が描かれた絵馬の意義を考える上でとても貴重な資料です。

※絵馬の撮影は兼コンテンツによるものです。